



VJU
Vietnam Japan University
VNU since 1906

【日越大学メールマガジン Vol.28, 2019年9月号】

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学で、2016年9月にベトナムハノイで開校しました。

現在、修士課程に3期生79名の学生が在籍し、9月から第4期生92名（うち14名の外国人学生：日本人1名、ミャンマー人5名、ラオス人1名、フィリピン人1名、スリランカ人1名、ロシア人1名、ナイジェリア人3名、コンゴ人1名）【9/27時点】が加わり、計171名の学生が、共通科目の日本語と英語等の習得に加え、地域研究(MAS)、企業管理(MBA)、公共政策(MPP)、ナノテクノロジー(MNT)、環境工学(MEE)、社会基盤(MIE)、気候変動・開発(MCCD)、グローバル・リーダーシップ(MGL)の各専攻プログラムを勉強しています。



【今月のトピックス】

1 日越大学ニュース

1. 第4期生入学式の開催



(第4期生入学式)

9月9日（月）にVNU Nguyen Van Dao Hallにおいて、第4期生入学式を挙行了しました。

式典では、修士課程の学生92名の他、日越大学関係者（在学生、教職員）、ご家族、日越民間企業の方々、大学関係者、JICA関係者、そして、来賓として、日本側から、武部勤先生（日越友好議員連盟特別顧問）、越村敏昭相談役（東急株式会社）、岡部大介公使（在越日本大使館）、田中寧理事（JICA）、また、ベトナム側からは、Truong Tan Sang元ベトナム国家主席、To Huy Rua先生（越日友好協会会長）、Nguyen Kim Son総長（ベトナム国家大学ハノイ校）等にご臨席いただき、合わせて約200名に出席頂きました。

式では、古田学長から、「日越大学は、ベトナム、日本、地域、世界で国際的な資質を持った人材の養成をおこなうという使命をもっており、そのためには、「広い分野での応用力をもつ幅広い基本的な知識を統合する能力」、「社会の大きな変化に対応できる能力」、「高い道徳性や倫理性をもった指導的役割を發揮できる能力」が必要であり、本学では、あらゆるしがらみから解放することを目標とした教育、構成員の多様性と学生ひとりひとりの個性を重視する教育をおこなっていききたい。」との告辞が述べられました。

また、来賓を代表し、武部勤先生からは、「この大学はリベラル・アーツ教育を目指しており、高度な専門知識を修得することも必要だが、幅広い様々な知識を身につけて頂きたい。そして、皆さん自身で、サステイナビリティ学大学はこうあるべきだということを考えて実現して頂きたい。」との力強い励ましのお言葉を頂きました。

更に、越村敏昭東急株式会社相談役からは、「今後求められる社会での適応力の源泉は、専門知識だけではなく、むしろ自然科学、社会科学、文化や近代史等の幅広い知識、即ち「リベラル・アーツ」であるので、あらゆる事象に興味や関心をもち、環境に適応し、日本とベトナム両国間の政治、経済関係発展のキーパーソンとして活躍することを期待する。」との祝辞を頂きました。

これに対して、新入生を代表して、MGLプログラムの Tran Huong Giang さんから、「日越大学は、学問、人間形成の面から、学生を開発、発展させることのできる最適な大学であると確信しており、卒業後に大学で習得した知識、経験を基礎にして、それぞれの専門分野において主導的役割を果たすことができる人材になることを誓います。」との宣誓が述べられました。

2. サステイナビリティ学研究院開所式の開催

第4期生入学式に先立ち、サステイナビリティ学研究院 (ISS)の開院式を挙行政し、来賓として、三村信男茨城大学学長、Pham Bao Son ベトナム国家大学ハノイ校副総長等をお招きしました。

古田学長から、「日越大学は、本日、ISSを開院し、中島淳教授を初代院長としてお招きした。本学は研究志向大学として歩んでいるなかで、この研究院の開院は本学として大きな一歩となった。今後、ISSがサステイナビリティ・サイエンスの分野において、地域の権威のある研究機関となるよう、VNUとその提携大学及び日本の関係機関の支援を受けることを期待している。」との告辞が述べられました。

また、初代院長に就任した中島淳教授からは、「今後、ISSは、研究だけでなく、国内外の科学者を招いて専門的な交流や活動を積極的におこない、国際的な学際的研究グループを形成する役割を果たしていききたい。」と抱負が述べられました。

更に、式典の最後に、三村信男茨城大学学長に「パリ協定（気候変動）後の変化」と題して、「変革の時代の大きな流れ」、「パリ協定とSDGsの影響」、「社会的、環境的、経済的問題への統合的アプローチ」、及び「サステイナビリティ・サイエンス研究の課題」という4つのトピックスで、特別講演をおこなって頂きました。



(中島淳 ISS 所長)



(三村信男茨城大学学長)



(来賓出席者)

3. 電機・電子・情報通信産業経営者連盟（電経連）の来学

9月18日（水）、電機メーカー58社が加盟する日本の電機産業の人事・労務関係の経営者団体である電経連の海外研修の一環として、日本を代表する11社の電機メーカー（下記参照）の方々がVJUを訪問され、古田学長によるVJU紹介、オアイン副学長によるベトナムの高等教育や人材育成の現状に係る説明、質疑応答に引き続き、学生・教員との交流が行われました。

開始に先立ち、参加者代表の篠崎氏（東芝株式会社）より、「ベトナムは経済が急成長しており、活気に溢れている。建学の精神を持つVJUの皆さんとの交流を通して、日本とベトナムの友好関係を築きたい」と、挨拶がありました。

古田学長、オアイン副学長によるブリーフィングに引き続き行われた交流会には、20名程の学生・教員が参加しました。

参加者からは「VJUの学生さんは日本語、英語、ベトナム語ができるので大きなアドバンテージである」、「将来はベトナム人をより多く雇っていきたいので、日本語を頑張ってもらいたい」との激励がありました。また、「日系企業は長い目で人を見ている。社員に対する研修を重視しており、社員は自分の成長を実感できるのではないか。それが日系企業の（報酬以上の）魅力ではないか」という話等、熱心な意見交換が続きました。

今回参加した学生の多くは入学したばかりの1年生で、初めて日本企業の人事・労務担当者と直接話をする機会となり、積極的な学生の姿勢に、参加者の皆さんにもベトナムの活力、VJU学生の魅力を感じていただけたことと思います。

※（名簿順）沖電気工業(株)、ソニー(株)、(株)東芝、日本電気(株)、パナソニック(株)、(株)日立製作所、富士通(株)、富士電機機器制御(株)、三菱電気(株)、(株)明電舎、電機・電子・情報通信産業経営者連盟



(来訪者と参加した学生、教職員)

4. 第4期生オリエンテーションの実施

9月3日（火）から7日（土）にかけて、第4期生に対するオリエンテーション・ウィークが実施されました。

日越大学で行われるリベラル・アーツ教育についての説明や、大学での研究活動、研究者倫理といった学内講義の後、9月5日には Vinh Phuc 省に移動して、チーム・ビルディングのためのアクティビティを実施しました。新入生や教職員が一体になって、さまざまなゲームに挑戦し、新たな学生生活を送るための「絆（きずな）」を深めました。



(参加者全員での記念撮影)



(チーム・ビルディングのためのアクティビティの様子)

5. 日本の大学との交流

(1) 静岡大学アジアブリッジ・プログラム (ABP)海外研修

9月6日に、静岡大学アジアブリッジ・プログラム (ABP)の海外研修の一環として、6名の学部生と教職員3名が本学を訪問しました。

本海外研修は「目指せ、ネクストグローバルリーダー」をテーマに、海外で活躍する日本のグローバルリーダー（ブリッジ人材）との交流を通して、将来、グローバルリーダーとして活躍するための知識と経験を積むことを目的としたもので、高等教育分野におけるグローバルリーダーとしての古田学長に焦点を当てた講義及び質疑応答が行われました。

古田学長からは日越大学の紹介に加え、ベトナム研究を始めたきっかけやベトナムでの生活を始めた頃の苦勞、長いベトナムへの関わりを経た現在の日越大学への強い思い等を話され、

非常に興味深い内容になりました。

(2) 東洋英和女学院大学

9月6日(金)に、東洋英和女学院大学国際社会学部の吉川健治教授と、ゼミ学生9名が本学を訪問しました。

吉川ゼミの本学訪問は、昨年度に続いてのもので、国際協力に関心のある学生さんに対し、常駐する専門家より日越大学やJICAプロジェクトの説明を行うとともに、学内見学を実施し、ベトナムと日本の関係について、またベトナムの現状について理解を深めました。

(3) 立命館大学

9月12日(木)に、立命館大学国際関係学部の大田英明教授と、ゼミ学生7名が本学を訪問しました。

この日の訪問では、今月入学したばかりのグローバル・リーダーシップ・プログラムの第一期生が、国際機関の役割や入学動機、また今後の学習・研究や将来への抱負についてなど、幅広く英語でディスカッションを行い、双方にとって有意義な時間となりました。



(立命館大学学生と日越大学学生との交流の様子)

6. ベトナムでの幹事大学情報

(1) 茨城大学

日越大学入学式の前週は各プログラムのイベントで目白押しでしたが、MCCDでも新入生歓迎パーティーとオリエンテーションを開催し、茨城大学からは三村学長をはじめ総勢12名の教職員が駆け付け、新入生達を祝いました。

オリエンテーションでは、気候変動科学、気候変動影響・脆弱性、気候変動適応・緩和策をテーマとするグループに分かれ、学生達は初めての共同作業となるグループワークを経験しました。またMCCD修士課程の2年間で自分は何を学び、将来何になりたいのか、教員と先輩達も交えながら熱い議論が交わされました。

彼らの先輩となる2年生によるセッションでは、日越大学の厳しい学生生活において成功するための様々なTipsが学生の視点から紹介され、この日緊張し通しだった新入生達にとっては最もためになる話のようでした。



(オリエンテーションの様子)

(2) 筑波大学

9月16日に、公共政策プログラム幹事大学である筑波大学の国際室長・大根田教授はじめ8名の教員・職員が、本学を表敬訪問されました。

今回の来越は、「ベトナム・インドネシアにおける筑波大学留学フェア・高校説明会」が主目的でしたが、スケジュールの合間を縫って来学され、本学の今後の展開などについての意見交換がなされました。

一行は16日ハノイ市内、17日ホーチミン市内のそれぞれ国家大学傘下の大学(自然科学大学、人文社会科学大学、附属高校等)において模擬授業を行い、非常に多くの学生が参加しました。



(筑波大学と本学との意見交換)



(模擬講義の様子@自然科学大学, VNU)

7. 日越大学協定締結情報

8月26日、研究・教育の発展充実を目指し、古田学長は大阪産業大学（大阪府大東市）との大学間交流に係る包括協定に署名しました。これにより、今後、同大学との学生・教員交換、研究・教育協力を含む積極的な連携協力が推進されることが期待されます。

本学では、開設以来、国内外の大学・部局等との人材および教育・研究交流の発展に向けた連携を進めており、大阪産業大学が19番目の協定締結先高等教育機関となります。

2 日越大学専任教員の横顔

昨年度から本学では、専任教員の雇用を積極的におこない、本学の教育の質の充実を図るために優秀な専任教員を採用しており、各プログラムの専任教員を紹介していきます。

今回は、本年7月に、本学では初めて採用された日本人専任教員の地域研究プログラム(MAS)の上田新也先生、及び、来年度から開設予定の学部において開講される日本学プログラムの専任教員である Dr. Duong Thi Thuy 先生をご紹介します。

【地域研究プログラム(MAS)】

1. 氏名 : 上田 新也 (UEDA Shinya)
2. プログラム名 : 地域研究プログラム (ベトナム学)
3. 学歴 (Education Background) :
 - 2000年3月 : 早稲田大学法学部 卒業
 - 2003年3月 : 広島大学文学部 (編入学) 卒業
 - 2006年3月 : 広島大学文学研究科修士課程 修了



(上田新也先生)

2010年3月：広島大学文学研究科博士課程 修了

4. 日越大学に働くことになった経緯：

広島大学に院生として在籍時より長らく近世ベトナム史、特に村落文書を活用した研究をおこなってきましたが、私の研究手法上、現地での史料収集に多くの労力を割かざるをえません。ベトナムの研究機関に所属することは、研究上の地の利が得られるうえ、ベトナム語やその他の点で自分のスキルアップにもつながると考えています。

5. 研究テーマ： 近世ベトナム史、村落文書

6. 日越大学での研究計画と抱負：

これまで主に近世ベトナムの制度史や村落文書を用いた社会経済史を中心に研究してきており、おぼろげながら「ベトナム版小農社会」が明らかになってきました。これからはフエを中心とした村落文書の収集を進めつつ、近世ベトナム社会を東南アジア史、東アジア史といったより広い視点から捉える同時に、歴史的観点からベトナムの地域性、ないし地域性の形成過程といったものについて考えていきたいと考えています。



(村での史料撮影風景)

【日本学プログラム（学士課程）】

1. Name: Duong Thi Thuy

2. Program: Office for Promotion of Bachelor's Program in Japanese Studies

3. Education Background:

Dr. Thuy received the Bachelor's degree in Japanese at the University of Languages and International Studies – Vietnam National University in June 2012. After that, she got her Master's and Doctoral degree in Marketing and Distribution Sciences at the University of Marketing and Distribution Science, Kobe, Japan (04/2014 – 03/2019).

4. Process of joining VJU:

After getting the doctoral degree, Dr. Thuy returned to Vietnam and has been working as a lecturer in the office for promotion of bachelor's program in Japanese Studies at Vietnam Japan University since August 2019. Currently, in addition to teaching and doing research, she gets involved in some tasks for launching the Japanese Studies program.

5. Research theme:

Her research interests included marketing, distribution systems, retail internationalization, and service internationalization. She is researching focus on domestic development strategies, internationalization strategies of companies from developing countries, and foreign-invested companies that have made inroads in developing countries such as Vietnam.



(ズオン・ティ・トゥイ先生)

日越大学 Facebook (ベトナム語) <https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts>
日越大学 Facebook (日本語) <https://www.facebook.com/jicavju/>
JICA HP <https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html>

【メール配信停止・変更】

本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学・日越大学
修士課程設立プロジェクトメールマガジン編集委員会 mail.magazine@vju.ac.vn、石田までご連絡頂ければ幸甚に存じます。